

23 株式会社ナナイロ（旧社名：株式会社 Sunnyday）

※旧・株式会社Sunnydayは平成28年10月1日付で株式会社PRO&BSCと合併して社名変更。



代 表 者 名 代表取締役 中嶋 竜大
設立年月日 平成17年10月
所 在 地 [本社] 宮城県仙台市青葉区本町2丁目6-35
第七広瀬ビル
TEL.022-200-9006/FAX.022-721-3503
U R L http://www.nanairo-inc.jp
資 本 金 2000万円
従 業 員 数 70人
職 種 情報処理業
事 業 内 容 システム・ソフトウェア開発、ウェブ関連事業を主力事業として展開するほか、ネット販売、デザイン制作、ペットサービス、飲食事業を展開

画像や動画を活用して深度のある情報を伝える 「多言語対応新観光ガイド」システムを開発

テーマ

Web 技術を活用した「多言語対応新観光ガイド」システムの構築事業

情報の正確性や外国語対応など、観光バスツアーのガイドが抱える課題を解決し付加価値のあるサービスを提供するために、Web技術とタブレット端末を活用した「多言語対応新観光ガイド」システムを構築する。

事業の内容

事業取り組みの経緯

観光バスツアーのガイドがスポットの説明を行う際に、ツアー参加者が該当スポットを識別できない、見過ごしてしまう場合がある。さらに日本人と外国人観光客が混在した場合、外国語の対応が難しいなどの課題を抱えている。そこで、貸出用システム機器（同期配信システム格納済みコンテンツサーバー・無線LANルーター等セット、タブレット端末）を導入するとともに、Web技術を活用した「多言語対応新観光ガイド」システムの開発・実証を行った。

実施内容

コンテンツサーバー機能付きグループ操作用タブレット端末（親機）には、当日の行程に沿った観光スポットの写真や動画、歴史的背景、エピソードといった観光情報のほか、災害時の緊急避難経路などを事前に格納。ガイドはグループ操作用タブレット端末（親機）を使用し、必要なタイミングでボタンを操作し、画像や動画などの情報を表示させる。ツアー参加者に貸与されるタブレット端末（子機）は自動的に親機と同期させ、同じ画面が映し出されるように設計した。

タブレット端末は加入している携帯電話通信網を利用することも考えられるが、観光バスツアーは電波の微弱な地域を通過することもある。そこで、電波の安定性のある無線LANを活用。本システムにおけるアプリケーションの格納先は、グループ操作用タブレット端末（親機）のみとし、汎用的なWebブラウザの利用により端末メーカーやOSを限定せず閲覧できるよう配慮した。

成 果

平成27年3月、仙台市で開催された「国連防災世界会議」および関連事業の視察ツアーに「多言語対応新観光ガイド」システムを提供し、システムの有効性を実証した。視察ツアーでは、松島町や南三陸町など視察する被災地や観光地のコンテンツを格納したタブレット端末を無償供与。技術的課題や運用上の課題を洗い出すとともに、国内外に類のない先導的モデルとしてアピールを行った。

当時、大規模改修中で建物全体が工事用シートで覆われていた松島町の瑞巖寺では工事前の画像を表示。円通院では紅葉がライトアップされた秋の庭園の画像を表示。ツアー参加者は目の前の庭園風景と見比べ、歓声を上げた。南三陸町では、志津川高校から撮影された津波の動画を同じ場所で再生したところ、臨場感をもって津波を想像できたという感想が寄せられるなど、高い訴求効果が得られた。



今後の展望

本事業の結果、「多言語対応新観光ガイド」システムは、多言語対応ガイドシステム「SYNK（シンク）」として結実した。今後は宮城県、仙台市、松島町、南三陸町など公的機関の協力のもと、バス会社、タクシー会社、通信会社、観光関連施設などにシステムの普及を働き掛け、さらには宿泊施設や土産物販売店などの付加情報を収集することにより、観光情報の提供と土産販売のPRに応用していく。また、収益事業としてシステムおよび無線LANネットワーク機器、グループ操作用並びにツアー参加者用タブレット端末の貸し出し、多言語対応ガイドシステム「SYNK」の活用企画・運用支援はもとより、コンテンツ作成支援、研修、技術使用ライセンスの供与などを有料で展開する。



株式会社ナナイロ
代表取締役 中嶋 竜大 氏

応募のきっかけ

本事業に申請するきっかけは被災地の「語り部バス」に参加したことでした。語り部ガイドが車内前方に立って写真で説明をしても後方座席からは見えにくい、雑草の生い茂った現在の風景や跡地を見ても、初めて被災地を訪れた人には津波被害がイメージしづらいという課題がありました。また、外国語対応も課題に挙がっていました。そこでITを活用して解決できる方法はないかと考え、システム開発に取り組みました。

ひと言メッセージ

当社はシステム受託開発を中心に事業展開をしていますが、現在オリジナルソフトウェアの開発にも積極的に取り組んでいます。その1つが多言語対応ガイドシステム「SYNK」です。被災地での使用を想定して開発したことから、特に観光分野において有用なシステムとなっております。導入負担が少ないことも特長ですので、宮城の活性化に役立てるツールであると考えております。